

## 第22回 プロダクトサポート研究会報告

(一社)日本航空宇宙工業会(SJAC)は、2005年度よりRFID(Radio Frequency Identification)システムに関する調査検討を推進し、2013年にはBK117ヘリコプタを用いた実証実験を実施した。この時のメンバーが、後方支援に関する情報共有のために2012年9月に立ち上げた会がプロダクトサポート研究会である。その後、参加募集をSJAC会員企業全社に広げ、ユーザーである防衛省からの参加も得て、今日まで情報交換の場として重宝されてきた。

このたび2024年3月8日(水)にSJAC会議室において、令和5年度の活動成果を共有する第22回研究会を開催した。今年度の参加団体である海上自衛隊、航空自衛隊並びに16の企業から29名の参加を得て、幅広い質疑応答や意見交換を行い、参加者の今後の活動への期待を確認することができた。



研究会の様子

### 1. 挨拶

冒頭でSJAC佐藤常務理事から挨拶した後、研究会参加者全員から一言ずつご挨拶を頂いた。

### 2. 令和5年度成果の報告と令和6年度の計画案説明

昨年6月に第21回研究会を同じ場所で開催し、今年度の活動計画への賛同を得た。その後、続く4回の検討会それぞれへの参加希望を募り、目的とした情報交換を完遂することができた。令和5年度の検討会実績は右表の通り。

### 令和5年度のプロダクトサポート検討会

	開催日	テーマ	参加団体数
第1回	7月28日	・最新後方支援事例	15
第2回	10月13日	・情報セキュリティ要求に対する業界の対応	15
第3回	12月4日	・プロサポへの活用が期待される技術情報	15
第4回	2024年2月9日	・講演「統合プロダクトサポートと国際規格」 ・R6年度以降、研究会で扱うテーマについて	17

## 令和5年度の検討会参加団体

団体名称	備考
海上自衛隊 海上幕僚監部	オブザーバ
海上自衛隊 補給本部	オブザーバ
航空自衛隊 航空幕僚監部	オブザーバ
航空自衛隊 補給本部	オブザーバ
株式会社IHI	
株式会社SUBARU	
日本電気株式会社	
日本飛行機株式会社	
三菱電機株式会社	
有人宇宙システム株式会社 (JAMSS)	
株式会社ジャムコ	
東芝インフラシステムズ株式会社	
三菱プレシジョン株式会社	
伊藤忠商事株式会社	
三菱重工業株式会社	幹事会社
川崎重工業株式会社	幹事会社
富士通株式会社	幹事会社
株式会社エヴァアピエーション	幹事会社
株式会社 シーアールイー (CRE)	外部有識者
一般社団法人 中部航空宇宙産業技術センター (C-ASTEC)	外部有識者

各検討会において各団体から提供された情報をまとめた「R5年度プロダクトサポート研究会調査結果報告」資料を配布し、SJAC宮澤が説明を行った。

その後、令和6年度の活動計画案について説明し、意見交換をした結果、以下のとおり計画立案において配慮すべき方向性を確認できたので、幹事会で検討することとした。

- SJAC会員より提供できる情報が無い場合の参加を可とすること、およびメインテーマから外れるテーマでも情報提供を可能として欲しいとの要望を受け、「困り事」の発表でも参加可能とするなど、参加条件を見直す。
- 海自、空自共にニーズ提供、発表を中心としつつも、SJAC会員と同じく「困り事」の発表も可として参加を依頼する。
- 国際情勢などの影響による環境の変化に対応してテーマも変更できるよう柔軟性を持たせる。

令和5年度と同様、令和6年度の参加企業募集にあたっては、本資料をSJAC会員企業全社に展開して共通の価値を見出すメンバーを登



掘するとともに、後方支援事業の置かれた環境への理解を広めていく。

### 3. 所感

航空機関連の後方支援体制拡充を目指す本研究会には、ユーザーである防衛省に毎回多数参加いただいております、同省の航空機産業界

への期待の高まりが感じられる。国際情勢の変化がますます激しくなり、国際共同開発や装備移転における後方支援の在り方に係る検討の必要性に迫られる中、官民合わせての意識向上が必須であり、プロダクトサポート研究会の活動が有効に機能するよう皆様のご協力を強く期待するものである。

[(一社) 日本航空宇宙工業会 調査部部长 宮澤 克彦]